

調査報告概要表

作成日 2007年7月19日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入)4670500117
法人名	医療法人 親貴会
事業所名	グループホーム もぜ
所在地 (電話番号)	鹿児島県いちき串木野市春日町24番地 (電 話)0996-32-3033

評価機関名	特定非営利活動法人福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5前田ビル1F
訪問調査日	平成19年7月19日

【情報提供票より】19年6月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12年 9月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	15 人
利用定員数計	18 人
常勤	12 人
非常勤	3 人
常勤換算	人

(2)建物概要

建物形態	単独
建物構造	鉄骨 造り
	4階建ての 2階 ~ 3階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000~24,000 円	その他の経費(月額)	エアコン・Tv他 6,000円
敷 金			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 50 円
	または1日当たり	950 円	

(4)利用者の概要(6月1日 現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	7 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2			
年齢	平均 86.5 歳	最低	63 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	えんでん内科クリニック えのもと歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR串木野駅に近い商業住宅地にあり、既存のビルを改装した2階3階を生活空間に持つホームである。1階の駐車場では犬を飼い利用者が世話をしており、花壇やミニ菜園では収穫を楽しんでいる。法人内施設での作業療法士による生活リハビリテーションを活用し、ホームにも来訪してもらい学習療法に取り組んでいる。母体医療機関とは24時間連絡を図り、安心した医療連携体制を築いている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営理念の明示については入居案内等に明示しており、啓発については公民館長にホーム便りを渡すなどして行事連絡を行っている。玄関まわりへの配慮は、季節によって花を植えたりし、階段に家庭の雰囲気を出し出すような装飾をする等取り組んでいる。緊急時の対応についての実技講習は全職員にはまだ実践が行き届いていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者だけで行うのではなく、職員も共に行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み
	地域包括支援センター職員・利用者家族・地域代表者に対して状況報告をすとも、行事に関する意見やホームに対する要望をだしてもらっている。それによって家族の行事への参加協力ももらえるようになり、今後は防災訓練や家族会についての検討を深めていく予定である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族来訪時や担当者会議・家族会にて意見を聞きとるようにし、出てきた内容は職員全体で検討している。また、意見箱の設置もしているが、そこには特に意見は出てきていない。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携
	町内会に加入しており地域行事への参加をしている。近隣小学校との合同田植えを行ったりと、幅広い年代と交流を図る取り組みをしている。また、近隣のグループホームとも合同で外出行事を計画して地域の方々と触れ合っている。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員で考えた従来の理念はあるが、地域の中でその人らしく暮らすことに関する理念の検討はまだ行っていない。	○	今後の取り組みとして、地域密着型サービスの役割を理解し、果たすべき役割を反映した理念づくりを検討されたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り後に唱和し、理念の共有・実現を図っている。職員は、利用者が安心した生活を送れるように日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し地域の行事に参加している。また、近隣の小学校との合同田植えを行う等、幅広い年代と交流を図る取り組みをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を理解しているが、職員においては理解の程度に差がある。自己評価については、職員も共に行っている。前回の外部評価に対する話し合いを持ってはいるが、検討や取り組みが十分とは言い難い項目もある。	○	前回及び今回の外部評価の結果を踏まえた改善計画を作成し、運営推進会議で意見をもらおう等、今後はより積極的に取り組むことを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター職員・利用者家族の代表・公民館代表の出席のもとで定期的開催している。ホーム側からの報告だけでなく、それぞれの立場から意見や要望を出してもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険課担当者とは日頃から行き来があり、相談しやすい関係づくりが出来ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理と職員の異動については報告をしており、緊急時には電話連絡も行っているが、日常の暮らしぶり等については、全体的なものとして年に2回発行の「もぜ便り」のみである。	○	ホームでの暮らしぶりは、家族にとっても気になる場所であり、また、来訪回数の少ない家族へのアプローチにもなるため、利用者別の情報を定期的に発信することが望ましい。個別コメントや写真掲載も検討されたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や担当者会議・運営推進会議の際に意見や要望を出してもらい、出てきた内容については話し合いをし、結果についても報告をしている。敬老会行事の折に家族会を開催している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者・管理者は、馴染みの関係づくりを重視し、異動や離職を最小限にするよう努力している。職員交代時には、今までのケアが継続できるよう法人内の協力を得ている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修参加一覧表を作成し、職員が公平に研修参加できるように取り組んでいる。月はじめに2ユニット全体会議をし、その後に勉強会を行い伝達講習もしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に加入し意見交換をするとともに、近隣のホームとも合同行事を計画したり、職員同士の交流をしたりと質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用前に、家族等の見学や利用にあたっての説明は確認できたが、本人は入居時にホームを初めて見るというのが殆んどである。入所している方でも、利用前にその施設担当者と連絡をとっているが、利用者本人と面接することはない。	○	本人の来訪が困難という場合もあるが、出来るだけ本人の安心と納得を得て、馴染みながらのサービス利用となるような支援に努められたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	伝統的な昔話を教えてもらったり、田植えの際は共に作業をしたりと、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が優しく話を聞くことで、利用者の希望を把握するようにしている。また、利用者の思いや意向は、利用者本人のそのままの言葉で記録に残し、職員全体で更なる把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成する際は、担当者会議を開催し利用者や家族の要望をもとに、職員と話し合いながら計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しと必要時の見直しを行っており、全体会議で意見をもらったり報告をしている。記録の整理もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者に対し通院支援や墓参りなどの個別送迎を行っており、家族宿泊時には食事(実費負担)や布団貸し出しサービス等、柔軟な対応をとっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族の希望のかかりつけ医と連携を図っており、また法人医療機関とは常に連絡がとれるようになっている。各科の受診支援も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	サービス利用開始時に、終末期に対する個別意向調査を家族に行っている。家族の希望によっては看取りまでしたいという考えがあり、実際に1名の看取りをしているが、それに関する指針やケアマニュアル等はない。	○	ホームとしての方針を全職員で共有し、重度化や終末期に対する具体的な対応方法を明確にするとともに、必要な知識・技術の習得に努められたい。また、重度化による職員の不安に対しても対策を講じられたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等の個人情報の取り扱いは適切であり、利用者の写真掲載に関しては家族の了解をもらい掲示している。職員は利用者に対して、尊厳に配慮したケアが出来るように心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	読書好きの方や晩酌をしたい方など、一人ひとりのペースややりたいことを尊重し、利用者の希望に副った支援が出来るよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量により、食事の下ごしらえ・後片付け・台拭き等の一連の動作を共に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの入浴の希望にあわせて、入浴が楽しめるように見守りや介助をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	犬の散歩・料理の手伝い・洗濯物たたみ等の日常の様々な場面で役割ごとがある。また、生活リハビリテーションに行くことで楽しみごとを増やしている利用者も多い。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所への買い物・散歩・墓参り・近隣の自宅への帰宅などに対して、外出支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、自由な暮らしの支援を行っており、夜間は侵入者防止のため施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練は実施しているが、夜間を想定した訓練はまだ行っていない。災害時の非常食などの準備はある。	○	災害時に協力が得られるように、日頃から近隣への声かけ・働きかけをしていくことが望まれる。今後は消防関係者だけでなく、地域自治会にも参加を求め、地域住民参加型の災害対策を推進してもらいたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
はなされている。					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士に食事内容のチェックはしてもらっているが、管理者職員は大体の一日摂取カロリーを把握していない。摂取割合や体重の個別記録はある。	○	体重によって配膳量を変化させるだけでなく、大体の一日摂取カロリーを知っておくことも大切なので、今後は提供カロリーと水分量の把握に努めて欲しい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはソファがあり、畳の空間も準備しており、利用者はそれぞれの場所でゆったりと過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	扇風機・布団・筆筒などの持ち込みがあり、それぞれの大切な物に囲まれて居心地良く暮らしている。職員はプライバシーを大切に支援を行っている。		